

花巻の仕事

Made in HANAMAKI

調整機能付き後方平板支柱型短下肢装具 RAPS(ラップス)



脳卒中によるまひなどで、不自由になった足首を固定する短下肢装具。カーボン製の支柱を採用し、軽量で装着しやすいため、高齢者から若い人まで、幅広い年代でご使用いただけます。

「歩く」を支える機能性と快適性を追求した新製品です。

会社名 株式会社P. O. イノベーション
所在地 桜町一丁目397-2(☎0198-23-4091)
会社概要 昭和20年、花巻で創業。昨年、有限会社平賀義肢製作所から社名変更。岩手県全域で義肢・装具・車いすをトータルでサポート。30人の社員が専門性を持ち、製品の企画、提案、製造、アフターフォローを行っている

■どんなトラブルがあるの？
 ○「布団のクリーニングをしませんか。料金は無料です」と電話があり、以前購入した業者からの電話と思い、訪問を受けた。その業者から「カビが生えていて、細かい羽毛が出ています。このまま使うと健康に悪い」と言われ、勧められるままに新しい布団の購入契約を結んだ。受け取った書類を見ると以前購入した業者とは別の業者だった。高額な契約に後悔しているので解約したい

■注意することは？
 ○一度契約した人に、次々と業者が訪れ、高額な商品の契約を迫るケースが見られます。不審な業者は家に入れないようにするとともに、業者の言葉に惑わされず、必要のないものはきっぱり断りましょう
 ○訪問販売の場合は、契約書面を受け取った日から8日間以内であればクーリング・オフが可能です
■困ったときは？
 ○市民生活総合相談センター(☎24-2111内線259)へ

市民生活コーナー

布団などの訪問販売に注意！

丹精込めたシュンランで全国1位を目指す

岩手県春蘭会の会長を務める高橋順一さん。丹精込めて育てたシュンランが、昨年11月に開催された全国日本春蘭連合会主催の第33回春蘭秋季全国展示大会で全国3位に相当する参議院議長賞に輝くなど、全国的に高い評価を得ています。

◆岩手県春蘭会の活動は
 春と秋の年2回、会員が育てたシュンランの展示会を開催しています。春は花、秋は葉を鑑賞します。ことしも3月に花巻市交流会館で春蘭展を行い、多くの方に来場いただきました。
◆シュンランを育てるきっかけになったのは
 全国的な大会で1位になりたいです。また大会に出品したり、各地で開催される展示会に出掛けたりすることにより、地元だけでなく全国の皆さんとも交流を深めたいと思います。

もともと花が好きで、エビネやウチヨウランなどの山野草を育てるうちに、15年ほど前からシュンランも手掛けるようになりました。シュンランは花を咲かせるまでに3、4年かかります。一生懸命世話をして、花が咲いたときのうれしさはひとしおです。花の色が赤、黄、紫、白、緑とさまざまあるのも魅力ですね。

◆今後の目標は
 全国的な大会で1位になりたいです。また大会に出品したり、各地で開催される展示会に出掛けたりすることにより、地元だけでなく全国の皆さんとも交流を深めたいと思います。

パーソナル PERSON'S 103



高橋 順一 さん
 (大迫町大迫 65歳)

世界と花巻

ベルンドルフ市・花巻市友好都市提携50周年

オーストリア共和国ニーダーエスタライヒ州ベルンドルフ市とは、ハヤチネウスユキソウ(早池峰山に咲く花)とエーデルワイス(アルプスに咲くオーストリア国花)がよく似ているという縁で、昭和40(1965)年に、大迫町(当時)と国際友好都市の盟約を結びました。

これ以来、市内中高生、親善登山隊、ワイン留学生などの派遣や、ベルンドルフ市のギムナジウム校(日本の中高一貫校に当たる学校)生徒の受入れなど、多岐にわたる交流を続けてきました。

ことし、友好都市提携50周年を迎えるに当たり、ベルンドルフ市から、ギムナジウム校の生徒を含む訪問団を本市にお迎えし、友好都市提携記念日の10月12日にお祝いの行事を開きます。記念式典や祝賀会のほか、ベルンドルフ市から



「日本-日出る処」をテーマに開催されたベルンドルフ市 舞踏会会場
 舞踏会会場で、コツリックベルンドルフ市長(左から2人目)と浴衣姿の友好都市推進関係者の皆さん

贈られたオーストリア原産のブドウの木の植樹など、市民をあげて訪問団を歓迎し、50周年を盛大に祝います。

ベルンドルフ市でもことし初めから、友好都市50周年記念祭をテーマにさまざまなイベントが開催されており、両市の間で祝賀の気運が高まっています。

※市ホームページにベルンドルフ市で開催されたイベントの詳細情報を掲載しています。「国際交流室」で検索し、ご覧ください

いきいき仲間たち



百姓一揆の歴史をひも解く 稗貫・和賀の百姓一揆を語る会

【問い合わせ】
 会長 金野昭人さん(☎24-2838)

「稗貫・和賀の百姓一揆を語る会」は、平成22年に設立し、現在は26人の会員で活動しています。

「一揆を起こした側の立場に立った学習と研究をした」と話す会員の皆さんは、毎年、稗貫・和賀地域に残された史跡を歩く学習会を実施。一揆指導者の顕彰碑や供養碑などを調査するとともに、子孫の方から話を聞いています。さらに、講演会や研究会を開催し、会誌「響くほら貝」を毎年発行。一揆への理解を深めています。

昨年7月には、これらの活動の集大成として、同地域の



史跡を歩く学習会の様子。個人で調べたことを発表して、会員に教えています

百姓一揆と史跡の紹介を盛り込んだガイドブック「稗貫和賀百姓一揆の跡を訪ねる」を出版。郷土の歴史の伝承にも力を入れています。

会長の金野昭人さんは「多くの人に郷土の歴史や百姓一揆の本質の姿を知ってほしい」と、今後の活動に意欲を見せています。